

## 第2回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2015年10月14日（水）10時～11時45分

場 所：川崎市役所第3庁舎18階 第1会議室

出席者：〔委員〕小倉、庄司、末吉、鈴木、瀧田

〔川崎市〕地球環境推進室 中村、井田、石井、新谷

〔事務局〕一般社団法人CAT 小熊、山崎

### 1 開会

### 2 議題

#### (1) かわさきコンパクト上半期報告について

事務局CATから、上半期の事業について、資料に沿って報告された後、質疑、意見交換を行った。

- （委員）報告書の提出状況について、かわさきNPO法人連絡会について、新規となっているが今年度の新規登録はないが、どういうことか。
- （事務局）前年度末に登録した団体で、現段階では報告書提出義務のない団体のためその表記とした。
- （委員）2年間報告書を出さない団体に対して辞退を促す、ということだが、2年間は長いのではないか。期限を切って案内を出したほうがよい。
- （委員）せっかく入っていただいたので、機会を捉えて、電話などのコミュニケーションをとって、提出できない理由を聞き出してほしい。その上での退会であればいたしかたないかと思う。
- （委員）提出している団体に申し訳ない。エネルギーと時間はちゃんと提出している団体に費やすべきだ。  
報告書を提出している、参画していることの意義が感じられるようにしたほうがいい。提出のお礼状をはじめ、招待状などでプレミア感を出して、参画団体に対して事務局が、関心がある、気を遣っている、情報を提供したいと思っている、といった能動的な姿勢を入れていくことが大事である。
- （事務局）お礼の文面などを工夫してプラスのインセンティブをつけていきたい。
- （委員）新規については誘いかけのリストを作って新規の参加を進めていって欲しい。
- （委員）それをするためには、環境以外の団体へも声掛けができるような体制にしていきたい。
- （委員）今年、持続可能な開発のための2030アジェンダ（以後SDGs）が9月の

国連総会で正式に採択された。17の目標がある。これは環境だけではない項目が多く含まれていて、グローバル・コンパクト（以後GC）に参加している川崎市としても取り組むべき内容となる。かわさきコンパクト（以後KC）から脱皮して、SDGsとして広めていくなど、勧誘の仕方の可能性は広がっている。

- （委員長）それに関しては、以降の議題で議論したい

## (2) かわさきコンパクトセミナー及びかわさき環境フォーラム出展企画について

資料に沿って、事務局からかわさきコンパクトセミナー及びかわさき環境フォーラム出展企画について、それぞれ資料に基づいて説明された。

### ① セミナーのチラシについて

- （委員）KCの説明は裏に入っているが、表に出して「かわさきコンパクト」が目立つようにしたい。
- （委員）国連の「グローバル・コンパクト」と川崎市の「かわさきコンパクト」が関連づいていることをイメージできるレターヘッドを作ってKCに関連するチラシに使用して統一感を出したほうがいいと思う。
- （委員）確かに毎回同じものを使うことで、市民に浸透させることは必要だ。

その他、チラシの内容に対して意見が出され、事務局から対応する旨の返答があった。

### ②かわさき環境フォーラムについて

- （委員）ちらしが10月末になっているが、これはいつ頃できる予定か。
- （事務局）本実行委員会のちらしが10月末にできてあがってくるので、それを土台に制作する。
- （委員）高津周辺の子ども文化センターなどへ配架を考えている。

## (3) 国連グローバル・コンパクトのコミュニケーション・オン・エンゲージメント（COE）について

COEについて、資料に基づいて市から説明があった。

- （市）国連グローバル・コンパクト署名の非営利団体から、ステークホルダーへ向けた取組に関する2年毎の活動報告のことである。今までは営利団体のみの義務だったが、今年度から非営利団体にも義務化され、川崎市としては初めての提出となった。末吉委員に市長へのレクチャーに入っていた。現在は市長、及び副市長との意見交換を踏まえて、文言を調整している段階で、10月末までに

国連に提出する予定である。市長にコミットしていただくいい機会となった。

- ▶ (委員) 市長が報告書を提出したということを大きく川崎市の web サイトで掲載してほしい。
- ▶ (市) 国連グローバル・コンパクト本部には掲載される。まずはかわさきコンパクトのサイトに掲載したい。川崎市サイトへの掲載は今後調整していきたい。
- ▶ (市) 市長と先日話をしたところ、市長も SDGs に関心を高く持っている。SDGs の流れで国連 GC に署名している、ということはどう生かしていくか、末吉委員から補足を戴きたい。
- ▶ (末吉委員) SDGs (Sustainable Development Goals)、日本語では、持続可能な開発のための 2030 アジェンダ、と言う。2000 年のミレニアム開発目標 MDGs(Millennium Development Goals) から 15 年間経ち、世界の目標が終わることを受けて、ポスト MDGs を議論してきた。その成果が 7 月にまとまり、国連の採択は 9 月で同時に安部総理も取り組みを宣言している。MDGs は主に途上国向けのもので、目標は 7 つ。主には貧困問題、人権問題、環境問題、男女格差の問題とかなりの成果を上げたが、全部は達成できなかった。SDGs では、もっと広範囲な目標となり、17 項目、個別項目は 169 と膨大である。2030 年まで国際社会は SDGs を旗頭に活動を広げていくことになる。その流れの中で川崎市の行政、市内の企業、市民も、SDGs が求めている持続可能な開発概念を念頭に行動していくことになる。SDGs は GC が目指している 10 原則も全部入っていて、ねらいは同じである。グローバリゼーションの中で経済を追ってばかりいると環境や人権侵害、貧困が広がってしまう、と範囲が広がったので、SDGs 一本で行っても基本的にはカバーできる。ただ、既に GC は大きな組織になっているので、世界的にすぐ変わるわけではない。川崎市は唯一 GC をやっているのだから、SDGs についても先駆けて 17 の目標に沿った活動をする、という旗を立てるほうがいい。KC の活動実績があるから、無理ではないと思う。
- ▶ (市) 非常に大きな話で、KC は環境局だが、もっと全庁的な組織で対応していくような話となる。
- ▶ (委員) 川崎市が積極的に先鞭をとることを勧めたい
- ▶ (委員長) 次項の今後の展開にかかる話でもあるのでそちらの議論に移りたい。

#### (4) かわさきコンパクトの今後の展開について

より多くの企業、市民の参加を促すために、参加方法、報告の変更などの提案について、市から説明があったあとに意見交換を行った。

<主な変更内容>

- 新規参加：審査会を設けず、申請書の提出で参加が決定する。様式は変更なしとする。

- 年次報告：提出された報告書の内容を冊子に掲載して見える化を図る。冊子は適時配布し、webに掲載する。
  - （委員）冊子は、報告書を提出する側に実利があるのと読み物になっていることから、もらうほうにもメリットがあり、効果があっている。
  - （委員長）冊数、配布先、発行する時期を、次年度にするのか、年度末にするのか。
  - （市）今年度は12月までに内容を固めて、1、2月のイベントに合わせて配りたい。来年度以降は、12月までに報告をいただいて、3月までに発行と考えている。
  - （事務局）現在は事業所の事業年度に合わせて報告書をもっているが、次年度から冊子をベースとした活動報告にするということであれば、事務手続きも変容していくのではないかと思う。
  - （市）どちらにしてもまだ参加企業、団体の方にお話ができているので、この方向性で、ということになれば、年明けに開催する交流会の中で、制度変更の方向性を示して了解をもらいたいと考える。その意見交換の中で活動報告は年度でやりたいということであれば、検討させていただくことになる。メールや電話ではなく、直に意見をいただきたいと考えている。
  - （委員）冊子のタイトルは「活動報告」にするのか？
  - （市）提出する側には活動報告になるが、冊子としてはPRに使うのでタイトルは相応のものとする予定。
  - （委員）PR冊子として作ったほうがいい。PR冊子を毎年作るので、それに掲載するための報告を提出して欲しい、としたほうが、出すほうの文章も変わる。
  - （委員長）セミナーや交流会へのご意見は？
  - （委員）前回から大きく変わらないので特にない。
  - （委員長）今後の展開の検討として、10年を迎えるにあたって、前回の話し合いでもしたが、市民コンパクトの原則の2番目にある「地球温暖化防止活動を進める」というのを変えたらどうか、と言う案もあったが、それについてはいかがか。
  - （委員）「宣言1 私は川崎の町と人と自然を大切にします」に賛同して登録した団体が、環境への取り組みが多いことで居心地の悪さを感じているのが現実。内容が環境に特化している限り、広げるのは難しいと考える。SDGsに賛同する、が前提にあればとても広がると思う。逆にコンパクトは環境に特化してしまうのもひとつありではないか。もっと全庁的な部署が担当となれば、「ひとにやさしく」の内容が厚みを帯びてくる。
  - （市）補足ですが、SDGsが提唱されるなど、社会状況が変わっていく中で、市の担当部署だけで決めるということではなく、KCに参加している方々がどこを共感いただけるのか、できれば、話し合いの場を設けてそこに参加してもらって意見交換しながら決めていきたい。来年度は、できれば2~3回ワークショップなどを重ねて展開を検討したい。

- ▶ (委員) より広げていきたいのなら、既に参加している団体と話すだけでなく、ここに参加していない人から意見を聞かないと、一般の市民活動団体にどう納得してもらうのか見えてこないのでは。文言を変えて間口を広げても中身が変わらなければ何も変わらない。KCは環境に特化したものとして、環境関連団体などをこまめに取り込んでいく。それ以外のところは別のしくみで連携できればいいじゃないかと、と割り切ってしまうこともありかと考える。
- ▶ (市) SDGsの取り組みをどのように進めるかについては、なるべく早くKCと関連して整備し、提案していきたい。先ほどのご意見はもったもたことだと考えている。
- ▶ (市) 今まで入っていないかたも含めた多くの方の賛同を得られるように、進めたい。作業としては大変だと思うがチャレンジしていきたい。
- ▶ (委員) 今年一杯に市長の基本的な考え方を固めて欲しい。来年度一年かけて、何を作るのか、どう脱皮していくのか、一年かけて議論して決めて、2017年度に新しい装いができるように進めて欲しい。様々な人の意見を聴く必要はあるが、川崎市が「こうしたい」という方向性を決めて意見をもらう方が、議論は進む。
- ▶ (委員) SDGsは日本国内で賛同を広げるような活動の可能性はあるか？
- ▶ (委員) 作ったものを広げるためにSDGsのネットワークができ始めている。2015年9月に横浜で開かれた国際サミットの間を借りて、国際的なネットワークの宣伝がされているし、安部総理が演説をしている。演説のなかで、日本も持続可能な開発に取り組むと宣伝した。総理が約束したのだから、国内で色々な形での実行が始まるだろう。また国連のネットワークの日本支部という形ができている。いまは学者が多いが、これから企業がプレイヤーになれば、普及活動は本格化するだろう。GCはビジネス中心だったが、今回はあらゆる社会のステークホルダーが取り組むかたちになると思う。地方自治体である川崎市が率先してGCの流れの中で、市民、ビジネスを巻き込んでいく、というのはいい形だと思う。目標の2030年まであと15年。おおげさではなく、21世紀の地球社会がどのように運営されるのか、そのベースをつくるものになると思う。
- ▶ (委員) 商工会議所ももちろん関係してくる。その視点でもって活動を見直すいいチャンスだと思う。
- ▶ (委員) 世界の消費者が持続可能な社会を作ろうという視点で動くとビジネスは変わらざるを得ない。何事も自然発生的に変わる変化もあるが、今の世界は、早く手を打たないと、大変なことになるという危機感、焦燥感にあふれており、それを強く思い、行動に移している人がいる。その成果のひとつがSDGsである。意志を持っている人が、気づいていない人を巻き込み、気が付かないうちに動かざるを得ない仕組みがいつのまにか作られている。水面下でいろんなことが決まり始めている。それが水面上に出てきたときは、やらなければいけないことになっていて、気がついたら、手足をしばられることになる。外堀は埋められて、旧態依然としていられなくなる。

- (委員長) KCを作ったときは「地球温暖化防止」が主眼だったが、それ以外の言葉もいれていかなければならなくなっている、ということですね。2017年度からリニューアル、というこのスケジュールでいいか？
- (委員) 今の KC は現状維持で、むしろ次のことへの検討についてエネルギーを多く使って欲しい。
- (市) 市民協働など環境だけでなく色々な分野で広がってきている。全て包括していくような動きになっていく。KCでは支えきれなくなっていることもあるので、新たな組織としてやっていくのか、あるいはその中の一部門として、やっていくのか、市のほうで整理させていただければと思う。

### 3 事務連絡

次回については、交流会の日程調整とともに別途メールで調整することとなった。

### 4 閉会